

製品名: ガストリンウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab11307**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	12kDa

抗原情報

遺伝子名	GAST
別名	GAST; GAS; Gastrin
遺伝子 ID	2520.0
SwissProt ID	P01350
免疫原	抗血清はヒトガストリン由来の合成ペプチドに対して作製された。AA 範囲: 52-101

背景

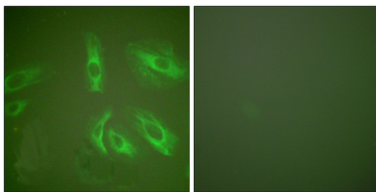
ガストリンは、胃粘膜からの塩酸分泌を刺激し、ガストリン形成を阻害することを主な機能とするホルモンです。また、このホルモンは胃腸上皮細胞の増殖因子としても作用します。ガストリンには、G34 と G17 という 2 つの生理活性ペプチド型があります。

[RefSeq 提供、2008 年 7 月],機能: ガストリンは、胃粘膜を刺激して塩酸を産生・分泌させ、膵臓を刺激して消化酵素を分泌させます。また、平滑筋の収縮を刺激し、胃腸の血液循環と水分分泌を促進します。、オンライン情報: ガストリンの進入,PTM: 硫酸化はタンパク質分解を促進し、ペプチドの分解を阻害します。タンパク質分解によって切断されたガストリン間では、硫酸化のレベルが異なります。例えば、ガストリン 6 はほぼ 73% が硫酸化されていますが、より大きなガストリンでは 50% 未満しか硫酸化されていません。硫酸化レベルも組織特異的である。、PTM: 幽門 G 細胞には、おそらく 2 つの異なるプロセッシング経路が存在する。優位経路では、プロガストリンは 3 つの部位で切断され、2 つの主要な生理活性ガストリン、ガストリン-34 とガストリン-17 が生成される。推定される代替経路では、プロガストリンは C 末端側の二塩基性部位のみでプロセッシングされ、ガストリン-71 が合成される。、類似性: ガストリン/コレシストキニンファミリーに属する。、

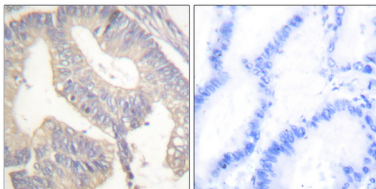
研究分野

-

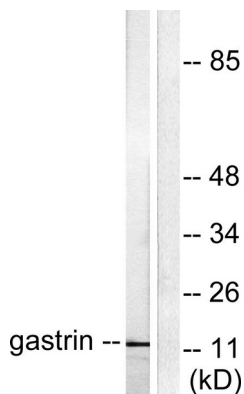
画像データ



ガストリン抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



ガストリン抗体を用いたパラフィン包埋ヒト大腸癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



NIH/3T3 細胞ライセートのガストリン抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。